

検討の観点と内容の特色

書名	新編生物基礎	教番	2 東書・生基 702	判型・ページ数	B5 判・210 ページ
----	--------	----	-------------	---------	--------------

項目	観点	内容の特色
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。 基礎的・基本的事項の理解や習得のための適切な配慮がなされているか。 発展的な内容の取り扱いに対する適切な配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校理科学習指導要領の「目標」「内容」及び「内容の取扱い」に示された事項のすべてについて不足なく取り上げている。 すべての節の冒頭に「Let's Start!」が配置されており、日常生活や社会とのつながりを実感できる内容から、導入できるように工夫されている。 適切な箇所に適切な「実習」が取り上げられており、思考の過程に沿って、生徒自らが課題を見いだして、探究的に学習が進められるように工夫されている。 本文の内容をより深めるために、適切な箇所に「コラム」が設けられている。日常、社会、歴史といった幅広い話題を取り上げられており、生徒の興味関心を喚起させる内容になっている。 「発展的な学習内容」には、「発展」マークを付し、必修の学習内容と明確に区別している。 「資料の読み取り」では、データや資料の分析・解釈を行うことができる。 章末に「章末まとめ」（用語の確認、まとめパネル）が配置されており、基本的な学習内容が確認できるように工夫されている。 巻末には「チャレンジ問題」が配置されており、学習内容の定着が図れるようになっている。
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。 中高の接続に対する配慮がなされているか。 弾力的な取り扱いに対する配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文は簡潔で、内容が精選されている。さらに、深めて学習したい生徒向けに「発展」が設けられている。「発展」の取扱いは、必修の学習内容と関連が図られており、程度・分量とも、過度な負担にならないように配慮されている。 学習内容に関連する既習事項を確認できるように「中学校とのつながり」が設けられている。また、二次元コードコンテンツで中学校の教科書の「学習のまとめ」の紙面を確認できる。 節の構成が、「Let's Start!」→「?」（学習の問い）→（「実習」）→本文→「!」（この節のポイント）で構成されており、生徒が主体的に課題を見いだして学習を進められるように工夫されている。 現在学習している内容が、章や項目のなかで、どこに位置付いているかを「ナビ」で示されている。 学習内容を広げたり、深めたり、振り返ったりするためのさまざまな活動「やってみよう」が適切な箇所に配置されており、授業や学習の進度に応じて取り組むことができるように配慮されている。
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 生徒の自学自習への配慮や工夫がなされているか。 指導書や周辺教材での工夫や配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 節ごとに「?」（学習の問い）と「!」（この節のポイント）が設けられており、課題意識をもって学習が進められるように工夫されている。また、「?」（学習の問い）の下にはキャラクターが登場し、生徒が主体的・対話的に探究するきっかけをサポートする配慮がされている。 文章は簡潔で、重要用語を中心に振り仮名がふってあり、生徒が読みやすいように配慮がされている。 章末の「章末のまとめ」（用語の確認、まとめパネル）と、巻末の「チャレンジ問題」の解答は、巻末に掲載されており、自学自習への配慮がされている。 「実習」ごとに、事故防止の注意マークを目立つように付してある。 細胞の観察や DNA の抽出など、基本的な技能が求められる実習には、二次元コードコンテンツで方法や結果が動画で視聴できる。 「生物基礎」の学習に関連する中学校の既習事項の内容や教科書の図版だけでは理解しにくい内容について、二次元コードコンテンツで情報を収集したり、アニメーションなどで理解を深めたりすることができる。 本文の最後の「結章」では、「生物基礎」の学習内容を社会や日常生活で活かすための事例が示されており、活動としても活用できる。 編末には、学習内容に関係する職業に就かれている方のインタビュー「生物基礎×仕事」や関連する書籍の紹介「生物基礎の本棚」が掲載されており、深い学びにつなげるための工夫がされている。 SDGs についても取り上げられており、学習内容と今日的な課題とのつながりを意識できる内容になっている。 巻末の「生物基礎 重要用語一覧」で教科書の重要用語とその定義について確認できるように工夫されている。 B5 判の大きい判型を活かして、カラーの図や写真が必要な箇所にふんだんに盛り込まれている。レイアウトも、写真と図を並べて示すなど、見やすく工夫されている。 指導資料は「授業プリント」や「デジタル板書」などのデジタル教材が充実しており、ICT を活用した授業にも対応している。

印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 ・環境保全や生徒の多様な特性に対して配慮しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製本は針金を使用せず接着剤で製本してあり、金属を使用しないことによるリサイクル性を重視している。 ・用紙には再生紙を、インキには植物油インキを使用している。 ・レイアウト、色づかいなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。また、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが採用されている。 ・本の中心までページを開くことができる製本のため、生徒が使いやすくなっている。
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ・上記観点からみた、全体的・総合的な当教科書の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き構成で、思考の過程に沿った本文構成になっており、授業がしやすい教科書である。図や写真の質が高い。本文は、基礎基本に徹底しており、必要な箇所「コラム」や「発展」を設けていて、授業の幅が広がると考えられる。また、巻末の「チャレンジ問題」は大学入学共通テストにも対応しており、この教科書で学習した生徒の学力の向上を図ろうとする編集方針が窺うことができる。全体的に完成度の高い教科書である。